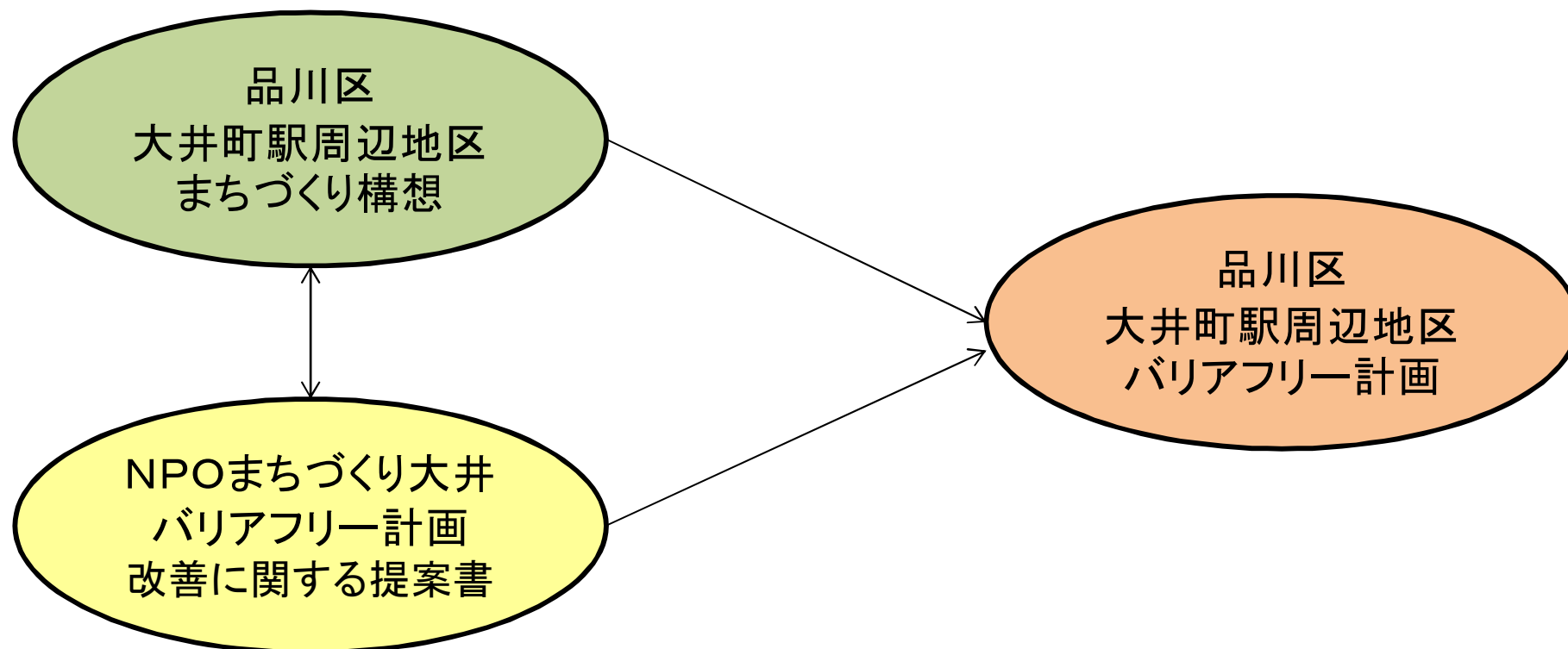


大井町駅周辺地区バリアフリー計画
《改善に関する提案書》

提案主旨

基本目標である「すべての人にやさしい 安心して快適に回遊できるまちなかの実現」(仮)に基づいて、品川区が平成22年に策定した「大井町駅周辺地区まちづくり構想」に記載されている計画案の実現も踏まえ、大井町駅周辺に多くの人が憩えるような、安心して楽しむことのできるまちづくりの推進や回遊性を高める観点での提案です。



提案項目とポイント(6-1)

(1) 大井町駅まわりの有効活用～駅に隣接した人が集まることのできる広場づくり

障害者用の駐車スペースを駅寄りに設け、車いすでの駅への乗り降りをスムーズにする。
(現在は、平和の像がある中の島に設置されており、駅に行くためには信号のある横断歩道を渡らなければならない)

* 障害者用の駐車スペースは、以下の①で提案する駅前広場内の適切な場所に設置する。

※上記の内容と関連して、大井町駅周辺地区のまちづくり構想の範疇になりますが、回遊性を生むために、「人を集める」という視点で、以下の2点を提案いたします。

①まちへの回遊性を生むためのきっかけとして、大井町駅中央口の西側地上前に人々が集まって憩える多目的広場を設ける。(濱野区長へ提案済-H25.10.21)

上記の多目的広場を活かすために、大井町駅中央口コンコース西側の壁面を取り払い、駅前多目的広場へつながるセミオープンデッキテラスを設ける。

②アトレと跨線橋の間に、跨線橋側を起点として、ある程度の広さがある多目的広場を設ける。

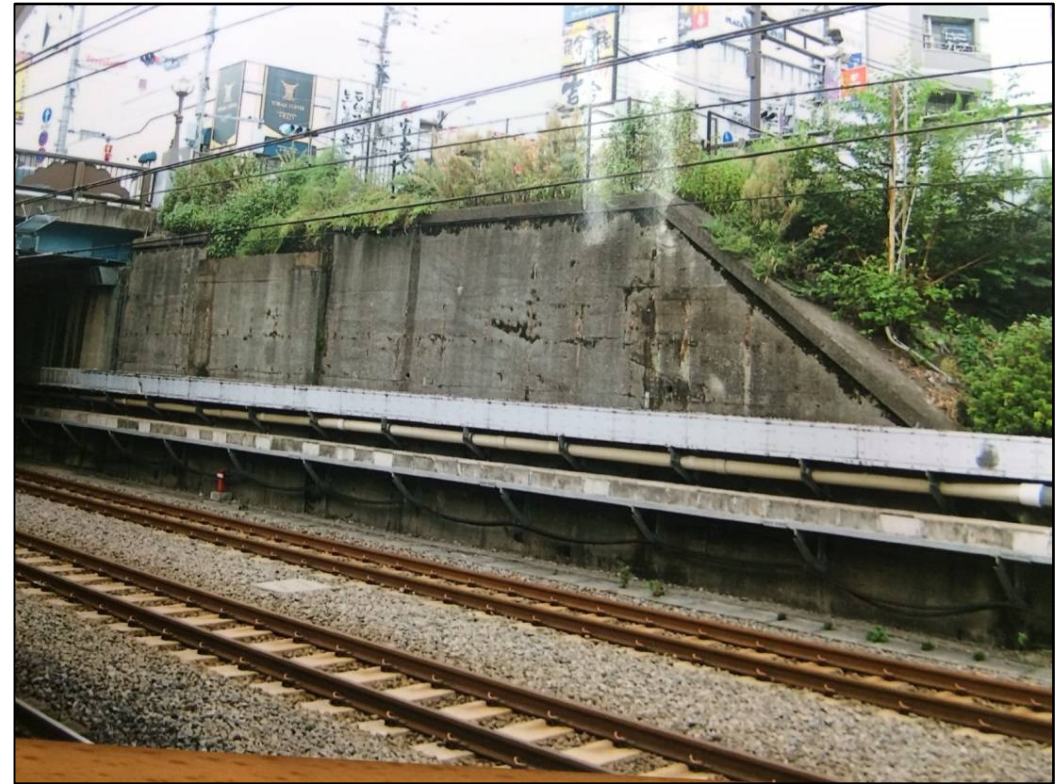
※また、上記の2点の延長線上の課題として、大井町駅のホームから見た西口側及び東口側の問題点も指摘させて頂きます。(次ページの写真参照)
景観条例の見直しが必要かと思われます。

西口側:古い建物が数件建っており、店の裏側の見た目がかなり汚く、印象が悪すぎる。
東口側:スロープ下のコンクリートがかなり老朽化している。

提案項目とポイント(6-2)



西口側：古い建物の裏側がかなり汚く、まちの印象が悪すぎる



東口側：コンクリートがかなり老朽化している

提案項目とポイント(6-3)

(2) 防犯体制の強化(震災対策を含む)

心のバリアフリー化を推進するために、“安心・安全なまちづくり”を推進する。

- ①現在奥まったところに設置されている交番を見える場所に移転させる。
- ②同時に、大井防犯協会や大井警察との連携において、防犯カメラの設置も積極的に推進していく。
(当法人がJT飲料と一緒に進めている自販機の上に防犯カメラを設置する事業も含む)
- ③ソーラーパネル付きの街路灯の設置。(震災の影響で停電になったとき、夜の暗闇に乗じて起こる様々な犯罪に対して、明かりによる犯罪抑止につなげる)

(3) 回遊性の向上

大井町駅前から周囲に広がっている複数の商店街のロケーションがわかるサイン(フリーWi-Fi機能付き)を複数個所に設置し、商店街の見える化を図る。(次ページイラスト参照)

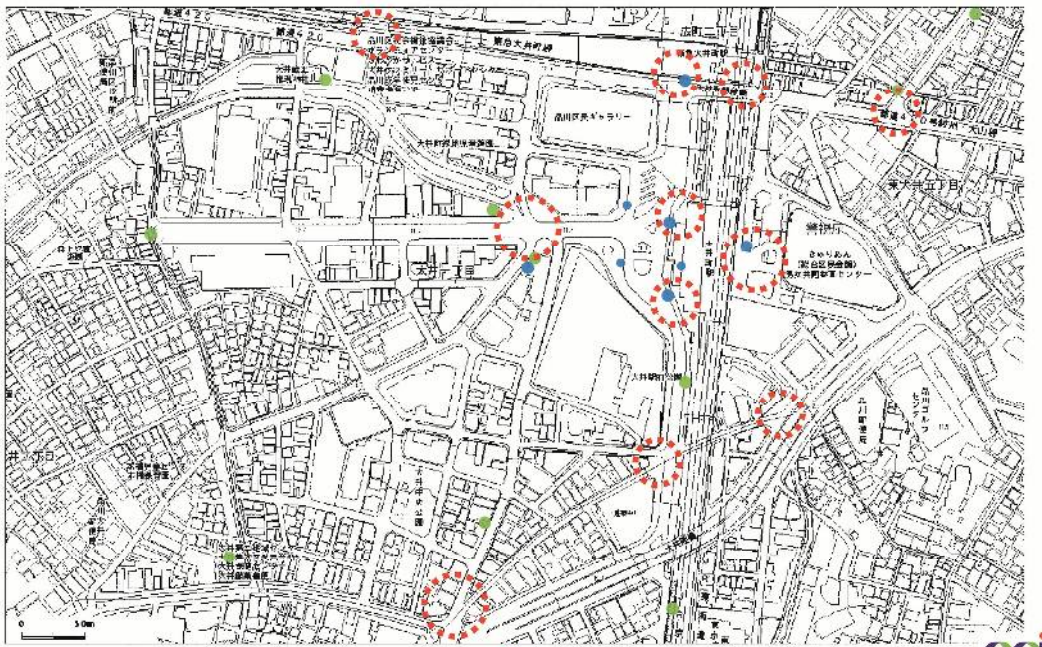
(注)

現在、“大井町ウォーク”などの商店街活性化イベントなどで、印刷物として企画に参加している商店は掲載されていたり、大井町ポータルサイト上にも商店の紹介は掲載されていますが、駅を降りた方々が気軽に見ることができる商店街マップが存在していません。

※この提案の実施は、民間サイドで実施すべきことですが、設置場所が公道(主に、品川区管轄)になるため、提案させて頂きました。

提案項目とポイント(6-4)

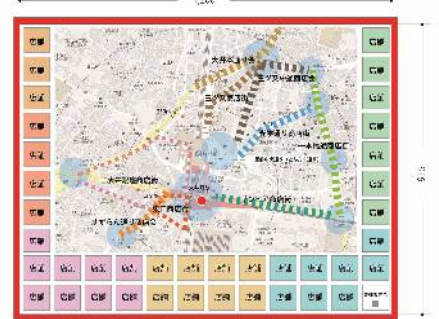
商店街及び店舗の案内・誘導サインの配置イメージ だれもが安心して、歩いてゆったり回遊できるまちなかのサイン環境の実現 06



既設表示板 : Map入り案内板
 新設: 商店街及び店舗の案内・誘導サイン設置エリア
 表示板
 06
 2014.09.29

サインの設置場所候補

だれもが安心して、歩いてゆったり回遊できるまちなかのサイン環境の実現 07



サイン表示面グラフィックイメージ
 ※サイン表示面の色味を調整可能な限り多言語対応を。
 QRコードによって個人の携帯・PCにGPS機能付きMAPを呼び込み、旅行中にも活用できるようにする。
 ※後述のとおりFREE WiFiのスポットを併設する。訪客が利用しやすい環境の実現。



ラインイメージ
 07
 2014.09.29

サインのイメージ

だれもが安心して、歩いてゆったり回遊できるまちなかのサイン環境の実現 08



おおいまち商店街MAP サインイメージ

08
 2014.09.29

提案項目とポイント(6-5)

(4) 駅周辺地区の多数の駐輪への対応

駅周辺地区のバリアフリー化を進めるうえで、多数の駐輪への対応は、障害者や高齢者を含めた通行人にとってのバリアとなっています。

地下に駐輪スペースを設けることにより、その対応が可能となります。

(設営イメージ)



提案項目とポイント(6-6)

(5) JR東日本の職員住宅の取り扱いについて

耐震上の問題があるとの理由で、平成26年3月に職員全員が退去した6棟のアパートが、無人のまま残されています。

このアパートの跡地再開発の計画より、JR東日本は、田町駅と品川駅の間に新たに設置される新駅のプロジェクトが優先課題であることは、私どもも十分に理解できます。

しかしながら、無人のアパートが取り壊されずにこのまま放置された場合、浮浪者の住処となったり、何らかの犯罪の場所に使われる可能性があります。

もしこのようなことが起きれば、JR東日本としても企業責任が問われることとなります。

つきましては、再開発の計画は先の話になったとしても、まずは、アパートを取り壊し、何もない広場にして、再開発計画が始まるまでの間、区民や来街者の憩い場として、解放することを要望させていただきます。

これからのまちづくりにおいては、“プレイスメイキング”という概念が注目されており、国土交通省も積極的に推進しています。

“プレイスメイキング”とは、まちなかに居場所をつくる概念であり、この概念の下で再生された公共空間の多くが、訪れる人たちの居場所となるもので、利用者を滞留させることが最大のデザイン目的となっています。

濱野区長が選挙政策で掲げている「まちづくり:品川らしい都市の魅力を創り、住みやすく、にぎわうまち品川をつくります」の中で、「①品川を中心とも言うべき大井町駅周辺の街づくりを「遊」の視点で取り組む」とも大いに合致する計画となります。